



関川村

第142号

令和8年(2026)

2月15日発行

議会だより



～ 大石集落 さいの神 ～

● 発議案(ゴミ屋敷条例)	2 ページ
● 一般質問	3 ページ
● 会議報告	7 ページ
● 議員活動報告	9 ページ
● 村民の声	10 ページ



村のホームページでもご覧になれます。
<http://www.vill.sekikawa.niigata.jp/>

発行 関川村議会 発行責任者 議長 小澤 仁
編集 議会広報常任委員会 TEL (0254) 64-1494

注目

関川村建築物等における 不良な生活環境の解消に関する条例

定例会議において、通称「ゴミ屋敷条例」原案可決

発議案

鈴木紀夫議員より、議員発議として15条からなる条例案が上程されました。(賛同者 加藤つや子議員)

趣旨説明

村内にて、建物や敷地における物の放置・堆積や、雑草の異常な繁茂により、周辺住民の生活環境の著しい悪化や火災による延焼の危険性などの問題が発生しております。

村には、一般廃棄物処理に関する基本ルール、公共の場での散乱防止、空き家や事業活動に関する条例がいくつかあります。しかし、ゴミ屋敷に関しては、既存の条例では間接的に問題の一部には対応できませんが、私有地内に堆積され、住人



が所有権を主張する「物」への対応や、福祉的な支援を伴う是正措置を講ずるには、いずれも法的根拠として不十分で新たな条例が必要となりました。

本条例は、「不良な状態」を解消し、村民の良好な生活環境と安全を確保するために、必要な権限と対策を確立することを目的とします。

質疑

川崎哲也議員

条例案には、村や住民の責務が謳われているが実効性について対話されたか。

鈴木紀夫議員

該当地域の方とは、複数回の対話を重ねたうえで、つくりあげた。

川崎哲也議員

ゴミ屋敷について村長は、9月定例会の一般質問で「法律や制度による対応が難しいので、個々の対応が望ましい」と答弁しており相違がある。

鈴木紀夫議員

村長の答弁を受けて、行政代執行(法)は求めず、村民の福祉を中心とした個々の問題の、根本的解決に向けた対応ができる条例とした。

討論

反対

関係法令との整合性や、実行可能かの審議を委員会で行うべきと考える。よって本会議では不十分と考え、条例案に反対する。

賛成

村では独居世帯や高齢者世帯において、認知症や身体機能の低下により地域から孤立し不良な生活に陥る方もいる。条例案が可決されることで村民の安心安全な暮らしを保障するために一歩踏み込んだ対応が可能になり、本人に寄り添うきっかけができることで生活環境の改善に取り組みると考え、条例案に賛成する。

反対

先般上程された請願の提出者は、強制力のある行政代執行を盛り込んだ条例を望んでおり、議会も請願を採択した。本条例案は14条で緊急措置を謳っているが、これは時間的余裕がない事

賛成

案での措置であり、行政代執行のような催告や命令を怠った場合に強制的に行う罰則措置ではない。請願紹介議員の立場であり請願を採択した議員として、行政代執行を盛り込まない条例案に反対である。

国の明確な法が整備されておらず、行政代執行は訴訟リスクと多大な費用が伴う。小規模自治体においてその回避は合理的な選択肢といえる。確かに行政代執行後はきれいになるが、時間が経てば同じ状況となり負担が増す。ならば根本的な原因を解決し、再発防止を目指すこの条例案が理想であると考え賛成する。

採決

賛成7名・反対2名

賛成多数で原案の通り可決され、県内でも類を見ない「ゴミ屋敷条例」が誕生した!!

村政を問う

12月定例会 一般質問7人登壇

一般質問とは、
行政の一般事務や執行状況、
将来方針について、議員が
村長などに考えを聞くもの
です。



ハンター支援さらに拡充を

村長 一歩踏み込んだ対応が必要



菅原 大蔵 議員

問 クマ出没時の対応について、関係者で連携・協力体制は整っているか。
村長 クマ出没の情報を受け、人的被害が懸念される場合には、猟友会や警察署と連携を図って対応をしている。

問 村内の有害鳥獣駆除の担い手を確保、育成する考えはあるか。
村長 担い手確保に向け、関係団体に相談を行うとともに、集落支援員などの活用も含めて検討を始めた。

すぐに人材確保につながるわけではないので、猟友会は害獣駆除に対応できる人材の育成をお願いします。

問 銃所持にかかる手続き費用や備品費も負担となっている。それら諸費用に対し、経済的な支援を拡充できないか。
村長 狩猟免許の内、第一種銃猟免許取得に関しては、村の猟友会に所属し、有害鳥獣対策に協力することを条件に、支援の拡充を考えている。金額は猟友会の意見を踏まえて決める。

問 有害鳥獣の捕獲単価を増額する考えは。
村長 サル、イノシシの捕獲単価は今年度から1万円に増額した。クマ駆除はこれまで無償だったが、9月から年度末まで、捕獲単価を1頭2万円として、補正予算に計上した。

猟友会



「改質リグニン」に取り組み 地方創生を

村長 可能性について調査・研究を進める



鈴木 紀夫 議員

問 杉から抽出した植物由来のプラスチック製品を作ることができ環境に優しい「改質リグニン」これを用いて中山間地に新たな産業をおこし、村の創生を図れないか。

村長 改質リグニンは、高機能で幅広い用途に使用でき、カーボンニュートラルという社会ニーズに答えられるものである。様々な課題はあるものの、着実に進展している。今後、地方創生の可能性に調査研究する。

問 私自身も調査を進めているが、調査に所轄の職員を同行させても良いか。

村長 国の研究所から視察オファーがきている。

行政として調査し、支援材、企業、採算性等の問題を見極め、そのうえで更に深く研究が必要となれば一緒に研究したい。

渡邊 邸について

問 木羽葺き補修が900万円と高額なのに対し国補助が80万円程度で、負担が大きすぎるが。

教育課長 文化庁に対し補助の増額を要望中。

問 木羽葺き技術が無償にて指導してくれる方がいる。すでに3名習得を予定しているが。

教育長 広く情報収集し技術継承を進める。



改質リグニン

教育振興計画は地域とともに策定を

教育長 村民の意見を聞く機会を設ける



川崎 哲也 議員

問 全国的に小中学生の学力低下が問題となっているが、村内の小中学生についてはどうか。

教育長 学力低下は見られない。要因として①デジタル機器の有効活用、②子どもの高い社会性・協調性、③地域住民との連携、④集中して学習に取り組む集団的風土ができている。などがある。

問 学校と保護者、地域住民の関わり合いが少ないと思うが。

教育長 学校運営協議会や、こども応援隊等を核として、子どもたちと地域の連携を深めていく。

問 家庭での生活習慣の乱れも学力に影響している。保護者が教育に積極的に関わる機会を作れないか。

教育長 家庭でのメディア管理は課題となっている。昨年、講座を開催し保護者同士で意見交換を行った。今後も、保護者の理解と協力を得るための働きかけを行う。

観光振興計画

問 本年の取組と評価、関係者との連携は。

村長 体験内容の増設や動画作成、観光関係者と村の意見交換を行った。取組の評価はこれからになる。

地域政策課長 観光関係者での意見交換は継続して行っていく



子ども地域の交流

議会が採択した請願 ゴミ屋敷について対応は

村長 関係部局で対応する



近 壽太郎 議員

問 去る9月定例会議において、「村内における不適切な生活環境を改善する委員会の設置を求める意見書」の請願書が採択された。ゴミ屋敷問題は、以前から周辺住民から苦情の声が上がっており、二百名から成る署名も村に提出されている。この請願に対しての経過と結果について伺う。

対応することとしており、その中で地域の皆様の意見を聴いたり、対応をお願いする場合も想定される。その際には話合いのできる場を設定していきたい。

問 確かに問題の解決には、そのような対応が必要だと思う。しかし、今後こういう事案が増えると思定される。委員会を設置すれば専門的な知識を得られ、村民に対しての意識啓発や注意喚起による予防効果、解決への早期の体制づくりが期待されると思われるが。

村長 村民に対する周知や予防対策については、広報等で十分周知できる。周知することによって啓発活動につながると思う。

問 議会として請願を採択したので、請願者に対して説明責任があると思うが。

村長 議会が判断されたことについては、行政として尊重する。議会側からの要請があれば、十分審議したうえで執行部の責任においてやるべきものと考えている。

子どもの発達障害への支援は

村長 外部専門家と連携し対応をする



近 敬志 議員

問 発達障がいへの理解度を深めるような保護者向けのプログラムが必要ではないか。

村長 保護者に対して子どもの成長の見守り方や、不安な点の事例などが記載された「ぼすのーと」という冊子を配布し、発達支援の理解を深めてもらっている。

問 外部専門家による巡回支援の強化により、保育士への負担軽減につなげられないか。

村長 研修等により、保育士のスキルアップを図るとともに、それでも障がいの有無の判断や対応が難しい場合は、外部専門家などに相談できる体制をとっている。

問 発達障がい等が認め

られた場合や、その疑いがある場合の支援は。

村長 保育士をはじめ保健福祉、教育の各部局が連携をし、必要に応じて民間の支援相談所につなげている。

問 こども家庭庁が進めている5歳児健診の実施への課題は。

村長 専門員や心理士といった、子どもの発達を判断できる専門職の確保があげられる。当村での3歳児以上の入園率は100%であり、保育過程において障がい認められた場合、就学時健診へつなげるため、新たな健診の必要性は薄い。



健診イメージ

村民の孤立死、孤独死を防止するために

村長 重層的支援体制を更に推進していく



かとうつやこ 議員

問 全国的に増加している深刻な孤立死、孤独死問題。少子高齢化、未婚、単身や高齢者世帯等が進む当村では、支援が必要な者およびその家族等を把握する仕組みは十分か。

村長 大変難しい問題と思うが民生委員や区長、介護サービス事業者等から地域包括支援センター、福祉、教育部局、社会福祉協議会に情報を貰うと共に、新聞販売員や郵便局、移動販売業者にも地域の見守りを依頼し情報を収集。年齢や背景に関わらず、法的な課題を抱える方々を早期に見ることができるように重層的支援体制を更に推進していく。

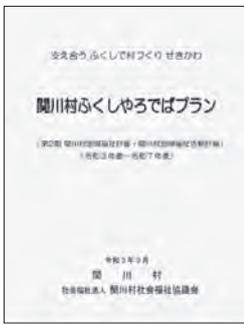
重層的支援体制とは
従来の支援体制では対応できない複雑な課題に対処するためのシステム

問 村民の孤独、孤立の予防や早期発見のために定期的な見守りや活動は行われているか。

村長 社会福祉協議会に委託している予防事業（地域の茶の間・つなぐ）や民生委員の定期的な訪問活動で見守り等が行われている。

問 孤独、孤立対策推進法に則った村の具体的施策はあるか。

村長 第3期関川村地域福祉計画で（策定中）地域の見守り体制について課題として取上げ、各種啓発や相談支援に努め、ご近所間の支え合いと繋がりでの取組を進めていく。



ジビエ解体処理場の建設はいつになるのか

村長 身の丈にあう資金で年内を予定



たかはしまさゆき 高橋正之 議員

問 有害鳥獣対策で、村民の安全安心のためにもパトロール強化が必要と提案したが、猟友会の負担が大きいため人材不足の観点から、ガバメントハンターの育成を提案したいと思う。村長の考えは。

村長 今年の熊の出没は、全国的な社会問題となっており、これまでのように、猟友会の皆様にお願いでするだけでは対応しきれないことが全国的に浮き彫りになったと感じている。国では今年十一月緊急的対応として、自衛隊OB、警察OBへの協力を要請する。村では、熊出没が多くなる年が増えていくことを受けて、専門的知識を有した職員

の育成を国や県に要望する。

問 ジビエの解体処理について進捗状況を伺う。

村長 先般の検討会では、村有施設で丸山公園広場の管理棟を第一候補として選定し、具体的な検討に入ったところ。

問 保健所の方には、いつごろまでに見てもらおうのか伺う。

農林課長 保健所の方とは協議を始めているところですが、現地確認については年内をメドに考えている。

問 建設新聞によれば、解体処理場の費用は、四千万円程度と掲載されていたが、予算の確保はあるのか。

村長 とてもそんな金はないので、身の丈に合った資金で、身の丈にあった設備で、負担が少ない形で進めていきたい。



丸山公園

会議報告

臨時会議と12月定例会議の内容を抜粋して報告いたします。

臨時会議

10月20日開催

◆報告1件・議案1件について審議

■国民健康保険関川診療所特別会計補正予算(第3号) 40万円追加

○一般管理費 20万円
○役員費 20万円

◇令和8年3月末で退職される医師の後任を募集。募集に係る活動旅費と広告費
鈴木紀夫

募集先の大学はどこか。
健康福祉課長

自治医科大ほか、地域医療に関心のある方を募集する予定。

加藤つや子

今後の診療所運営を、どのように考えているか。

村長

整形の患者さんは、他の

医療機関へ転院を勧めている。後任の医師が決まれば勤務体系に則した対応となり、将来的には人口減少等に伴い人件費や設備費拡大の抑制も必要と思う。

定例会議

12月11日開催

◆議案14件、同意1件、発議案1件、請願1件、陳情1件について審議

■一般会計補正予算(第6号) 3億7450万円追加

○脱炭素推進事業費 2億7612万円

◇脱炭素先行地域づくり事業費補助金で、松平地区の太陽光パネル設置分。

○有害鳥獣駆除対策事業費 210万円

◇下関地区林地崩壊復旧工事増工分。

■簡易水道事業会計補正予算(第2号) 50万円追加
○給与改定によるもの。

◇クマ対策備品、消耗品購入代(100%県補助)捕獲用の罠、熊スプレー等を購入。

○農林水産業総合振興事業補助金 939万円



平田広
補助金の内容は。

○学校管理費 66万円

農林課長
上野新農業センターのコンバイン購入費補助(1台・約1800万円)

◇中学校の修繕料で、令和8年度入学生徒に対応する手すりの設置分。



○道路除雪対策費 960万円

■国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号) 860万円追加
○実績に基づく国県支出金精算返還金

◇除雪車の修理費で、昨年度の点検における整備不良分。

■介護保険事業特別会計補正予算(第3号) 100万円追加
○給与改定によるもの。

○工事請負費 400万円

■下水道事業会計補正予算(第2号) 48万円追加
○給与改定によるもの。

○給与改定によるもの。

※請願第2号、陳情第4号は、関川村議会より国に意見書を提出した。

■同意第3号

○関川村監査委員の選任

◇令和8年4月～4年任期
下関 佐藤潤一郎さん

■発議案第2号

○関川村建築物等における不良な生活環境の解消に関する条例の制定(※討論有り)
※本紙2ページに記載

■請願第2号

○インターネット上の人権侵害に対し速やかな措置を求める意見書の提出を求める請願

■陳情第4号

○新潟水俣病全被害者ンお救済と問題解決に向けた取り組みを求める意見書の採択を求める陳情

議員表決結果報告

区分	件名	小澤仁	加藤つや子	川崎哲也	近敬志	近壽太郎	加藤和泰	高橋正之	菅原修	平田広	鈴木紀夫	結果	
臨時	議案	国民健康保険関川診療所特別会計補正予算(第5号)	—	○	欠	○	○	欠	○	○	欠	○	可決
12月定例会議	報告	委員長報告(議会広報常任委員会/産業建設・総務厚生常任委員会)	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	議案	第74号～80号まで条例一部改正/一括審議	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	議案	新潟県市町村総合事務組合の規約変更	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	議案	村上市と関川村との間の急患診療所事務の委託に関する規約の変更	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	議案	一般会計補正予算	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	議案	国民健康保険事業/介護保険事業特別会計補正予算	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	議案	下水道事業/簡易水道事業会計補正予算	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決
	同意	関川村監査委員の選任につき同意を求めること	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○	同意
	発議案	関川村建築物等における不良な生活環境の解消に関する条例の制定	—	○	×	○	×	○	○	○	○	○	可決

○ 賛成 × 反対 — 議案が議員本人に関する場合や議長は採決に参加できません。

表紙の小話

さいの神(大石集落)

1月11日、雪の降る中やぐら作りとお札集め。夕方点火し、30名ほど集まった。もち焼きが始まると子ども達から「キャッキヤ」と「熱いね」「もう焼けたかな」との声が上がって大盛り上がり!!



議員活動報告

産業建設・総務厚生常任委員会合同視察

●柏崎刈羽原子力発電所

令和7年11月18日(火)

発電所の概要と安全対策や原子炉模型を使って発電の仕組みなどの説明。

発電所の設備や安全対策の実施状況を聴き、6号機建屋内にて原子炉オペレーティングフロア、タービンオペレーティングフロア、フィルタベント設備を見学パネルで中央制御室の説明があり、発電所構内の全体を見ることができた。



視察の感想

再稼働に向けた整備も整っている印象を受けた。ちなみに敷地面積は東京ドーム90個分。



森をはぐくむ地域づくり講演会

令和7年11月19日(水)

●基調講演

「私たちが担うこれからの林業について」

●取組事例

「県北における次世代林業の取組」

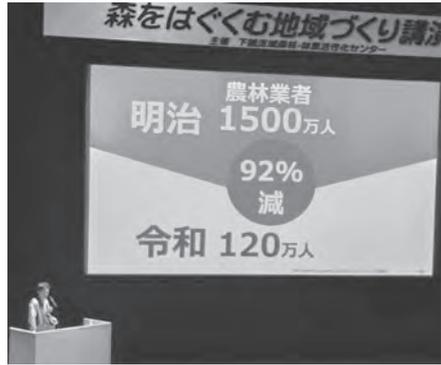
ふるさと納税研修会

令和7年11月25日(火)

●講演内容

「ふるさと納税制度の活用による稼げる地域づくり」(行政経営のイノベーション事例)

宮崎県都市ふるさと納税課長に來村いただき、行政職員と共に研修を受けた。都城市は「肉と焼酎」で全国トップクラスの寄付実績を誇る。閔川村でも、この研修を活かした取組を期待したい。



町村議会議員研修会(後期)

令和7年11月26日(水)

●講演内容

第1部

「講師」文芸春秋取締役

総局長 新谷 学 氏

「スクープに見る企業の危機管理」

総理大臣は国益と国民を守るため、危機管理を想定して物事に対応する必要があります。不祥事対応は「最優



先で守るべきものは何か」が重要であり、常に最悪を考え、悪い情報は一早く報告させ、情報公開は一刻も早くする。トップは組織を守るなら辞任の覚悟も必要。経営責任は結果責任であると新谷氏が述べた。

第2部

「講師」前神奈川県逗子市長/合資会社 まちづくりコーディネートセンター 代表 平井 竜一 氏

「市長経験者が明かす行政を動かす一般質問の極意」これからはAIが重要視される時代。平井氏から、具体的な一般質問のノウハウを学び、議員の資質向上を図るための研修であった。





あおと なおと 安倍直人さん みさき さき 美咲さん (鎌江沢)

村民の声

関川村の自然と生きる

Q 関川村に移住したきっかけは？

A 空き家バンクでの出会いがきっかけです。夫婦で「自然と共に楽しく満足できる暮らしをしたい」と考えていて、その挑戦に最適な場所と出会い、令和6年5月に鎌江沢へ移住しました。

私はパンづくりと作業療法。夫は設計と林業。それぞれの得意分野を生かし、暮らしと自然が繋がる生活を目指しています。

Q 実際に住んでみて、どうですか？

A 毎日のごはんがおいしく、集落の方々から食や生活の知恵をたくさん学ばせていただいています。

一方、仕事で地方医療に関わる中で、都市部と比べ医療資源に限界があると実感しました。その経験から、「何かあったら病院で治す」よりも、「病院に頼らない予防」が重要だと感じました。予防を推進するにあたり現状の課題としては大きく二

つ。

一つは活動環境の整備です。車移動が中心の暮らしや、冬の積雪は、特に高齢者の活動量を減らしがちです。交通機関の整備が難しい中で、移動に頼らず、身近な場所で体を動かし、交流できる環境づくりが必要だと感じています。

もう一つは食への関心です。関川村は自然が豊かで、農業や山の恵みが身近にある地域ですが、多忙な生活の中でそれを意識する機会は少なくなっているように感じます。自然や農業と関わりを深める機会を持ち、食が自分の身体や暮らし、そして関川の土地とつながっていることを実感できるような関心の持ち方が大切だと思います。

Q 今後の展望を教えてください。

A 一人一人が自然や自分



美咲さん主催「食の講座」

の身体に目を向け「自分に合った選択」ができる村になってほしいと思っています。その第一歩として「身体にも環境にも優しい商店がある集落」づくりを始めました。思いある人が自然に一步踏み出せるような地域となり、村内だけでなく、村外の人にも「関川村なら自分らしい暮らしが選べる」と感じてもらえる村になっただけで嬉しく思いません。



編集後記

何かと嫌われがちな雪ですが、この雪が新潟の豊かな食を支えているとも言えます。新潟に降る雪には日本海のミネラルが豊富に含まれ、春にはこのミネラル水が、山の栄養分とともに里に流れ出て、田畑を潤し肥やしてくれます。

そうは言っても、雪に苦勞されている方々もいますので、あともうしばらく、ご近所・地域の助け合いを。そして、温泉などで身体を癒し温め、健康に過ごし、笑顔で春を迎えられますように。

(哲)

議会広報常任委員会

- 委員長 加藤つや子
- 副委員長 近 敬志
- 委員 川崎 哲也
- 委員 高橋 正之
- 委員 菅原 修
- 委員 平田 広